



Title	REFから読み解く人社系分野別研究業績の特徴と日本の人社系研究成果可視化に向けた課題の検討
Author(s)	中野, 悦子; 山田, 綾子; 市川, 美南子 他
Issue Date	2025-10-21
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.98163
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98163
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	RA11_poster_PP2_040.pdf



【キーワード】 人社DX、研究業績、書籍、REF2021

よく
お願ひます

付箋・Google Formからの
皆さんのコメントを
お願いします！


Google Formはこちら

REFから読み解く 人社系分野別研究業績の特徴と 日本の人社系研究成果可視化に向けた課題の検討

人文・社会科学系URAネットワーク有志

中野 悦子*1, 山田 綾子*2, 市川 美南子*3, 押海 圭一*4, 新澤 裕子*3, 森岡 和子*1, 飯塚 理恵*1, 荒木 裕子*5, 矢吹 命大*6,
藤川 二葉*7, 李 香丹*8, 森本 行人*9, 川人 よし恵*2 *10, 丸山 浩平*9, 稲石 奈津子*7, 佐々木 結*7, 平澤 加奈子*3, 平田 充宏*11

0. イントロダクション： 2024年度から文部科学省「人文学・社会科学のDX化に向けた研究開発推進事業：人文学・社会科学におけるデータ分析による成果の可視化に向けた研究開発」では、人社系研究分野の振興を目的として、人社系研究の可視化のためのモニタリング指標の検討、特に、書籍に注目した指標の開発が目指されています*。一方で、人社系研究の多様性からモニタリング指標の設定は困難だとの声はこれまでにもよく言われてきました。そこで、**現場で研究者の身近にいる私たちURAが、一纏めにされがちな「人社系研究」の多様な研究成果について「解像度」を上げて可視化し自分たち自身の言葉で議論するため、**まずイギリスREF2021をはじめとした海外の研究成果（アウトプット）の分類方法、中でも「書籍（Books）」の扱いについて、基礎情報として紹介し（1. REFから読み解く）、人社系URAネットワーク有志が実施した人社系研究者へのインタビューから見えてきた、このテーマについての日本の現場感覚をまとめました（2. 研究者へのインタビューから読み解く）。ここから読み解けたものを暫定的な議論の土台としながら、人社系研究振興に資するモニタリングについて、皆さんからの生の声を是非お聞かせください。付箋やグーグルフォーム、直接のお声掛けも大歓迎です！

*科学技術・学術審議会学術分科会 人文学・社会科学特別委員会（第25回）令和6年11月29日 配布資料（資料1-1、1-2）

1. REFから読み解く：

海外の研究成果（アウトプット）評価、特に「書籍（Books）」の扱いについて、**定性評価の英豪の特徴を概観し、**
定量評価の国々の特徴と比較します

【REF2021：審査区分別研究成果】

	審査区分(Units of Assessment)	ジャーナル論文割合	Books割合	ジャーナル論文+Books
A 医学・保健・ライフサイエンス	1 Clinical Medicine	99.84	0.03	99.87
	2 Public Health, Health Services and Primary Care	99.17	0.10	99.27
	3 Allied Health Professions, Dentistry, Nursing and Pharmacy	99.56	0.12	99.68
	4 Psychology, Psychiatry and Neuroscience	99.80	0.12	99.92
	5 Biological Sciences	99.86	0.03	99.89
	6 Agriculture, Food and Veterinary Sciences	99.80	0.00	99.80
	7 Earth Systems and Environmental Sciences	99.52	0.43	99.95
	8 Chemistry	99.89	0.00	99.89
	9 Physics	99.76	0.04	99.80
	10 Mathematical Sciences	97.05	0.40	97.45
B 物理学・工学・医学	11 Computer Science and Informatics	76.38	0.51	76.89
	12 Engineering	98.89	0.20	99.09
	13 建築学・建築構造および計画	94.84	1.13	96.42
	14 地理学・環境科学	93.30	6.39	99.69
	15 考古学	66.72	32.28	99.01
	16 経済学・計量経済学	95.43	0.67	96.10
	17 ビジネス・経営学	97.32	1.89	99.21
	18 法律	64.08	34.50	98.58
	19 政治学・国際研究	75.89	23.69	99.58
	20 ソーシヤルワーク・社会政策学	61.96	37.93	97.98
C 社会科学	21 社会学	75.83	23.45	99.29
	22 文化人類学・開発学	73.21	24.97	98.18
	23 教育学	81.47	16.27	97.74
	24 スポーツとエクササイズサイエンス、レジャー・観光学	98.39	1.50	99.89
	25 地域研究	61.05	37.82	98.88
	26 近代言語・言語学	51.48	46.09	97.57
	27 現代学・文学 (English Language and Literature)	34.32	63.24	97.55
	28 歴史学	48.70	50.69	99.39
	29 芸術	28.37	70.04	98.41
	30 哲学	53.75	39.65	99.41
D 芸術・人文	31 神学・宗教学	37.48	61.24	98.72
	32 芸術・デザイン：歴史・実践・理論	31.10	31.02	52.13
	33 音楽・演劇・舞踏・舞台芸術・映画・映像学	31.77	42.42	74.19
	34 コミュニケーション学、メディア研究、情報科学・情報技術学	53.12	41.17	94.29
		83.55	12.80	96.35

イギリスREF2021のアウトプット分類

- 研究成果は7つのカテゴリー・22種類に分類
- REF2021で提出されたアウトプット：**雑誌論文83%、雑誌論文+「書籍」=96%**
- 分野別には、古典、神学・宗教学、国語学・文学で書籍の割合が多い

REF2021での「書籍」の扱い

- REF2021の「書籍」は、単著、編著、書籍の一部、解説書の4種
- 単著には、学術書だけでなく、研究に基づく教科書、小説、戯曲、脚本や創作作品の集積を含む
- 学術書は実質的な新規資料を追加した改訂版や新装版も対象
- 「報告書」は、その他のドキュメントとして、外部組織向け研究報告書がある（公開・非公開）
- 「翻訳」は単独で分類されているが、提出は全体の0.02%（言語学、文学分野で十数件）

アウトプットと「インパクト」の可視化の関係

- インパクト評価では、事例ごとにReferenceとして最大6件の研究成果が記載できる。アウトプット評価でリスト化されている全カテゴリーが可能、書籍もOK

REF2021の概要や一覧表のFull-versionなどの詳細はコチラ

英豪の研究評価での研究成果分類と「書籍」についてまとめた表もあります

「REFから読み解く」担当：中野（英REF2021）・市川（豪州）・押海（定性評価）・定量評価）

定性評価が定量評価か

英・豪・オランダ・伊：ピアレビューによって書籍の質が判断
⇨ **ノルウェー：**
書籍の出版に対して点数を設定した上で国家レベルで定量的評価を実施

- ノルウェー政府が研究業績データベースである CRISTIN (Current Research Information System in Norway)を整備、ノルウェーの研究者が出版したすべての研究出版物を登録
- その上で、書籍については出版社をレベル2（国際的に権威あり：全体の20%）レベル1（標準的：全体の80%）レベル0（非学術的出版）と分類し、研究資金の配分に使用
- ベルギー（フランドス）、ポーランドもノルウェーと同様の評価方法
- それぞれVABB-SHW、POL-onというデータベースが整備、書籍については出版社のレベルによって異なる点数が配分され、その結果が研究資金配分へ反映
- 独自のデータベースを整備することで、英語以外の各国の言語による出版についてもカバーされるというメリットが存在
- アジア圏では、現状では上記のように国レベルで図書の評価システムを導入している国はないが、台湾では母語の書籍・国内誌もカバーするデータベース (Taiwan Citation Index - Humanities and Social Sciences) が国レベルで整備され、研究者の多様な成果の可視化が進むとともに、定量的評価実施にもつながる可能性も
- 評価を受ける機関から提出された限定的な研究成果を定性的に評価するのか、網羅的なデータを使って定量的に評価を行うのか、世界的にも正解は出ていない状況
- 定量的な評価を実施する場合にも、出版社や出版物の格付けやスコア付けの妥当性をどのように担保するのかという問題が残る

2. 研究者へのインタビューから読み解く：

インタビューの回答の中から、論点抽出のために共通する傾向や分野固有と思われるコメントを中心にをご紹介します

研究成果の発表方法・形式

メインとなる研究成果の発表スタイル

発表方法	件数
論文	24
書籍	4
両方	11
その他	2

「その他」2件の詳細：委託事業等の報告書（博物館学60代）、受け手や目的・トピックに応じて選択（社会医学・疫学30代）

☆ **論文と書籍が中心**。どちらかといえば・・・と留保付きで論文という回答が多かった。ただし「論文」と言っても色々（査読付き論文、学会誌、商業専門誌への依頼執筆、大学紀要、国際誌（高IF）等）。学会誌の重要性は高い。口頭発表を論文にするケースも

☆ **発表言語**は、日本語、英語、その他言語分野だけでなく、研究対象と世代によって、何語でどこにどの形式で書くかのバリエーションがある

☆ 「書籍」のカテゴリー分け（学術書・一般書・教科書など）はあるが、**区別や重み付けは分野によって異なる**。また、編纂方法、時期、出版のタイミング、「出版」の意味や出版社の位置付けなど、多様で複雑

☆ その他のアウトプットとして「報告書」（考古学・博物館学、政策に関わる学問領域等）芸術系・博物館系では展示。口頭発表も重要

☆ **キャリア**によって発表形式が変わっていく。世代によって発表形式への方法（考え方）が異なるように見える

☆ 翻訳はメジャー言語以外や古代語などで、翻訳の意義が高い。翻訳もある

et cetera

キャリアのステップによってメインとなる媒体が変化する。（公法学30代）

翻訳はこれからAIにお願いできそうだけど、AIだとまだまだ難しい言語や分野もあるよね・・・

日本でほとんど翻訳されていない言語の文学作品を翻訳した。**翻訳は、たくさん解説を入れても研究業績だとみなされない**。好きだから翻訳しているが、それで評価されたらとても嬉しい。（比較文学50代）

アメリカでの出版は、査読と編集が徹底しており、出版自体が研究成果の質を担保する仕組みとなっている点が特徴。大学出版（University Press）が重要。（英米・英語圏文学50代）

アメリカの学術出版のビジネスモデルは、全国の図書館に売ることと成立している。アメリカの大学のPhDが初めてアメリカのUPから出版する道が開ける。（英米文学60代）

Research Articles

作家ごとの研究会・学会やテーマ（物語論、比較文学など）ごとの国際学会で発表する。**発表の後それが論集になる**。（フランス文学50代）

書籍を出版すること自体はそれほど難しくない。査読が出版の条件となっていない。それよりも**世界のトップ・ジャーナルに論文を掲載する方が格段に難しい**。（国際金融50代）

Books

学術書はその人のいわば研究の鏡。学術書が重要なのは、自身の研究を分かりやすく他の研究者に示すものだから。研究者レベルへの波及性。それに対して、**一般書は社会一般への波及性をもつ**。位置付けを明確に区別してはいないが、俯瞰した場合、**波及先は重要**。（中国哲学60代）

商業出版の新書などは1万部以上を初版とすることもあり、一般読者にも届く形で研究成果を発信できる手段。そのため**「商業出版＝非学術」という単純な線引きは難しい**、むしろ広く研究を伝えるアウトリーチの形として重要。（芸術実践論50代）

「本」は分担執筆と**報告書**。いわゆる**データ本だが、考察をプラスすることで学術成果となる**。出版社から出版されると「書籍」（編著）。政府からの調査委託に対する報告書は非公開となる。（考古学40代）

論文形式だと紙幅の制限があったり、雑誌・分野の慣行に従わないといけなかったりする。**書籍は、より柔軟に執筆できる**。学術書、教科書、一般書、いずれも大事な成果の一つ。柔軟さという意味で、書籍は貴重な媒体。（社会医学・疫学・政策科学30代）

論文だと「評」は出ないが、**一般書にすると評が出て価値が顕在化する**。（博物館学60代）

ある新書が権威ある賞を受賞したが、**そこに至るオリジナルの研究が評価されるべき**。（日本法制史40代）

研究動向を知るためにどうしてる？

- ☆学会誌・専門誌等で学界回顧を読む
- ☆国内外のトップジャーナルを読む（目次）
- ☆新聞・ニュース
- ☆研究者のSNS・出版社の新刊案内等、誰かにキュレーションされた情報で知る
- ☆オンラインツールで調べる：CiNii、Scopus、Web of Science、Academia.edu、Gallica（仏）、Cairn.info（仏）、J-STAGE、Google検索、Google Scholarなど
- ☆有力出版社等の学術書やシリーズ本
- ☆研究者ネットワーク
- ☆商業雑誌等の特集

博士論文を基にするような本に関しては当然ざっと見ておく必要がある。（アジア古代・中世史50代）

国内では**科研費の採択テーマ**が動向を知る手がかりとなることもある。（考古学40代）

絵本や小説、アート作品なども対象に含めるなど、**多様な資料収集を重視**。（英米文学50代）

判例の動向を見るのも大切。（商法・会社法30代）

人文学はロングテール。大括りとしての「経営学」や「経済学」の傾向を見ると、考古学の個々の地域研究の研究動向を見るのとは全く違う。（考古学40代）

優れた研究成果について

- ☆短いものであれば、定評のある専門雑誌、長いものは各大学の紀要
- ☆国内外の学会誌（厳しい査読による質確保、ただしページ数が限られる）
- ☆基本形はやはり論文がまずあって、それらをまとめていく上で書籍という形がある
- ☆英文トップジャーナル
- ☆この媒体だから優れているということはない
- ☆自分で判断する、自分が面白いと思うもの

- ・一番評価されるのは本・単著。（日本政治40代/日本法制史40代）
- ・書籍、とりわけ単著として刊行されるケースが重視。（芸術実践論50代）

一般的には**アメリカのトップジャーナル**にみんな投稿する。間違いない。（労働経済学60代）

優れた研究とは...

- ・新しい視点や独自性、創造性を持つ研究が評価されるべき（教科教育学60代）
- ・**発表媒体よりも中身が重要**。既存概念を打ち破る独自性や創造性を持つ研究に価値がある。（英米文学50代）
- ・「芽」になるもの。自分の気付きがなかった問題を明らかにする内容のもの。（民法70代）

引用について

引用は研究の価値を高める？

回答	件数	割合
YES	19	46%
NO	7	17%
どちらともいえない	4	10%
コメントなし	11	27%

☆引用は価値を高めるという意見が多数。ただし、その多くが数では測れないと回答（「研究コミュニティに属する研究者数の差、批判的引用、書籍については追跡できない、etc）

☆認知は上がるが、それが研究の価値を高めるといえるかは疑問という回答も

Citation

数値ではわからない。同時代的にどれくらい引用しているかがどの程度の意味を持つのかという領域もある。（イスラム思想史50代）

多いから良いという判断にはならない。若手の場合は紹介の意味もある。海外ジャーナルで多く引用されているものは、読んでみよう、引用しておこうとなる。（行政学・地方自治論30代）

数だけではなく指標として重要。自身の成果を引用したと聞けば、それは如何なる理由（肯定的、批判的）であったとしても、個人的には利用されたということではうれしい。（憲法学20代）

人社系研究をモニタリングする

☆人社系研究のモニタリング ⇒ 意見は様々な目的は？分野別なら可能？モニタリングより可視化が重要、どれくらいインパクトをモニタリングするかが重要、国民への理解のためなら必要？、研究者が縛られる、etc

☆ **書籍のモニタリング** ⇒ 可視化すること、データベースを作ることには肯定的な意見が多数。モニタリングに際しては、単に出版数ではなく学術書・一般書の区別や周辺情報との組み合わせ、重み付けが必須との意見が多数

何のためのモニタリングなのか重要。学術研究能力を測るための指標であれば論文発表数や引用数、学術学会での発表数などを把握することで大まかな傾向は把握できると思う。しかし、**これらを評価基準にして予算配分などに反映させるとなると、他の成果発表をするインセンティブは著しく低下する**。（国際政治学40代）

人文社会系の仕事というのはかなり需要が長い。私自身が百年前の論文を普通に使ったりもする。「その時」の教養的な指標で果たして判断できるかという難しさがある。**ショートタームで見ると見逃すものが多い**。人文系としても説明しづらい。（アジア古代・中世史50代）

指標は導入したほうが良い。特に書籍を体系的に位置づけていく、速報性や流行りではないものの、ジャーナルに劣らない成果として位置づけるためにも。出版数と引用数のセットや、出版社情報を加えられればよい。（食料・農業・農村政策50代）

客観的な指標で測っていく試みは必要。他方で**定性的なもの、評判、目利きに頼るものもある**。評判自体、可視化できれば面白い。（国際法50代）

客観的評価になじまない分野だと思うとも言え、税金を原資にしている以上、**最低限のモニタリング指標を上げるなら研究活動をして、公表していること…論文、出版査読あるなしや引用あるなしは分野によって千差万別なので、指標としにくい**がよい。（法哲学30代）

何をモニタリングすれば人社系研究の推進につながるのか...

そのためには、何があればどんなインフラがあればいいのか...

ご意見をお願いします！

3. 海外事例やインタビューから見えてくる課題・論点

- ・日本では「研究成果」の定義やカテゴリー分類があいまい？
- ・「研究成果」の定性評価と定量評価（質をみる英豪、数値化する北欧等）⇒ どちらの場合でもデータベースが日本は不十分？
- ・研究分野由来の「価値付け」（キャリアパスを含む）の差異をデータベースに反映させる方法は？
- ・インパクトの基となる「研究」のアウトプットという視点〜研究成果の可視化とインパクトの可視化の違い
- ・研究成果の可視化は、まずは研究者コミュニティのために必要？
- ・「優れた研究成果」とは何か、どこにあるのか？
- ・「引用されることの価値」と「引用数で測る評価」が混同して語られているのではない？

生き生きとした豊かな研究成果を生み出すために必要なものとは？

【発表者所属】

*1 北海道大学、*2 大阪大学、*3 東京大学、*4 国文学研究資料館、*5 広島大学、*6 横浜国立大学、*7 京都大学、*8 新潟大学、*9 早稲田大学、*10 大阪教育大学、*11 神戸大学

人文・社会科学系分野特有の支援の方法などに関する相談・情報交換の場として、2014年、阪大・京大・筑波大のURAでネットワークを発足しました。以降、人文・社会科学系担当URA有志のネットワークの輪が拡大し、現在、13機関が参画しています。「人文・社会科学系研究推進フォーラム」や「JINSHA情報共有会」の開催を通じ、URA、研究者、事務職員、府省・資金配分機関担当者などが、ともに人文・社会科学系分野のよりよい研究推進のあり方を議論しています。

【ポスターに関するお問い合わせ】

北海道大学 統合URA本部 中野 悦子 (nakano@oeic.hokudai.ac.jp)
大阪大学 大学院法学研究科 山田 綾子 (a-yamada.law@osaka-u.ac.jp)

【発表者について】

リポジトリへの登録・一般公開にあたり, CRediT (<https://credit.niso.org/>) で示された分類法を参考にしました。発表への貢献は以下のとおりです。

企画・構想:	中野
国内外の調査:	中野, 市川, 押海
インタビュー実施:	中野, 山田, 新澤, 森岡, 飯塚, 荒木, 矢吹, 藤川, 李, 森本, 川人, 丸山
インタビューまとめ・可視化:	中野, 山田
執筆:	中野, 山田, 市川, 押海
レビュー:	全員

【資料について】

本ページ以降の資料は, ポスター上では QR コードから参照できるようにしていたものです。

1. REF2021 アウトプットデータを活用し審査区分と Output Type でクロス分析(3-4頁)
2. ERA2018 タイプ別アウトプット(5 頁)
3. インタビューへのご協力のお願い(6-8 頁)

本ポスターには 4 つの QR コードがありますが, ポスター右上の QR コードで示されるのは参加者用の意見書き込み用グーグルフォームとなるため, 資料としては割愛しました。

【REF2021アウトプットデータを活用し審査区分とOutput Typeでクロス分析】（中野作成）

※対象業績数：185,286件（v. other documents：Confidential report for external bodyは非公開のため含まれない）
元データ <https://results2021.ref.ac.uk/outputs> ⇒ Download all details for all outputs (spreadsheet)

<REF2021の評価方法とアウトプットの割合>

・各大学が34分野ごとに資料を提出し、評価委員会が評価。3つの項目

①研究成果（アウトプット）60％：提出された研究成果の質を、独自性、重要性、厳格さの点から4段階で評価。業績のTypeは7項目22種類。

②インパクト25％：卓越した研究が基になって生まれた経済、社会、文化、公共政策、サービス、保健、環境、生活の質へのインパクトを範囲と重要性の点から評価

③研究環境15％：研究環境を成長性と持続性の観点から評価

・組織（評価単位）ごとに研究者数(FTS)×2.5本の研究成果を提出

各研究者1～5本（1業績必須⇒2029で変更可能性）

（参考）林隆之・齊藤貴浩「大学への交付金配分における大学評価の活用～主に研究評価について」第4期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方に関する検討会（第4回）2021.1.26、資料3-1。 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/108/mext_00003.html

<特徴> 提出業績は、雑誌論文とBooksで96.35%

・提出された Outputs の 83.55% が D. Journal articles

・34審査区分のうち30区分が、書籍関連（A～C+R. ）と雑誌論文(D) を合わせると96%以上

・多様な業績の提出が認められているため、特徴ある研究成果を示すことが可能

・審査区分により、論文とBooks、それ以外のウエイトが異なる

・Booksのウエイトが高いのは、人文学全般と、社会科学のうち、14. 地理学・環境科学、16. 経済学、17. 経営学、24. スポーツ科学・観光学

・いわゆる「理系」（審査区分AB）は、11. 情報科学以外は、雑誌論文の割合が97%以上（情報科学では、会議報告(E)が全体の約20%）

			(Part of) books				小計	Journal articles and conference contributions			小計	Physical artefacts		小計	Exhibitions and performance			小計	Other documents					小計	Digital artefacts (including web content)					小計	Other		小計	総計
			A	B	C	R		D	E	U		L	P		M	I	F		J	K	N	O	G		H	Q	S	V	T					
A 医学 保健・ ライフサ イエンス	1	Clinical Medicine	3		1		4	11,972	2	8	11,982			0			0	2			3		5					0			0	11,991		
	2	Public Health, Health Services and Primary Care	4		1		5	4,901	1	4	4,906			0			0				30		30				1	1			0	4,942		
	3	Allied Health Professions, Dentistry, Nursing and Pharmacy	7		7		14	11,575	6	2	11,583			0			0	3			24		27					0		2	2	11,626		
	4	Psychology, Psychiatry and Neuroscience	8	1	3		12	9,753	5		9,758			0			0				3		3					0			0	9,773		
	5	Biological Sciences			2		2	7,100		7	7,107			0			0						0				1	1			0	7,110		
	6	Agriculture, Food and Veterinary Sciences					0	3,422		2	3,424			0			0	3			1		4		1			1			0	3,429		
B 物理 学・ 工学・ 数学	7	Earth Systems and Environmental Sciences	13		6		19	4,364	1		4,365			0			0				1		1					0			0	4,385		
	8	Chemistry					0	3,686	1		3,687			0			0	3					3					0			0	3,690		
	9	Physics	2				2	5,481	1	9	5,491			0			0	1					1					0			0	5,494		
	10	Mathematical Sciences	16	1	7		24	5,823	35	118	5,976			0			0						0					0			0	6,000		
	11	Computer Science and Informatics	13	1	23		37	5,573	1,672	3	7,248	2		2	1		1	2	1		2		5	2		1		3			0	7,296		
	12	Engineering	15	3	18		36	18,007	149	1	18,157			0			0	9			6		15					0		1	1	18,209		
C 社会 科学	13	Architecture, Built Environment and Planning	188	48	191		427	3,129	23	2	3,154	3		3	3		3		1	71	21		93		2	2		4		4	4	3,688		
	14	Geography and Environmental Studies	232	7	47		286	4,179	6	3	4,188			0			0				3		3		1			1		1	1	4,479		
	15	Archaeology	187	80	123		390	806	5	1	812			0	1		1				1		1	1				1		3	3	1,208		
	16	Economics and Econometrics	7		8		15	2,130	1	86	2,217			0			0						0					0			0	2,232		
	17	Business and Management Studies	183	9	110	1	303	15,603	42	57	15,702			0			0				24		24	1				1	1	1	2	16,032		
	18	Law	872	26	1,121	1	2,020	3,752	4	29	3,785			0			0				45		45			1		1		4	4	5,855		
	19	Politics and International Studies	947	14	152	2	1,115	3,572		9	3,581			0			0				6		6			1	1	2		3	3	4,707		
	20	Social Work and Social Policy	518	35	272	1	826	4,226	8	6	4,240			0			0				83		83			1		1		6	6	5,156		
	21	Sociology	492	6	128		626	2,024	1	2	2,027			0			0				12		12				3	3	1		1	2,669		
	22	Anthropology and Development Studies	240	94	102	4	440	1,290		7	1,297			0	2		2				9		9			2		2		12	12	1,762		
	23	Education	444	21	393		858	4,295	15	7	4,317			0	1		1		2		83		85	1		1	4	6		5	5	5,272		
	24	Sport and Exercise Sciences, Leisure and Tourism	40		13		53	3,483	3		3,486			0			0				1		1					0			0	3,540		
D 芸術 ・ 人文学	25	Area Studies	265	36	229	9	539	870	5		875			0			0				8		8					0	2	1	3	1,425		
	26	Modern Languages and Linguistics	794	219	717	51	1,781	1,989	29	3	2,021			0	1		1		6		5		11	1	10	4	6	21	16	13	29	3,864		
	27	English Language and Literature	2,120	473	1,394	124	4,111	2,231	5	5	2,241			0		38	38		1		3		4		19	9	2	30	11	66	77	6,501		
	28	History	1,525	258	1,086	40	2,909	2,795	8	8	2,811			0	1		1				2		2		5		6	11		5	5	5,739		
	29	Classics	240	115	348	45	748	303	7	2	312			0	1		1						0	1			3	4	2	1	3	1,068		
	30	Philosophy	248	12	261	1	522	1,171	1	4	1,176			0			0						3					0	1	1	2	1,703		
	31	Theology and Religious Studies	398	49	303	13	763	467	3		470			0			0		3		1		4		1	2		3	2	4	6	1,246		
	32	Art and Design: History, Practice and Theory	648	268	1,049	5	1,970	1,975	204	1	2,180	360	13	373	699	100	799	14	15	39	30		98	4	12	165	1	182	1	747	748	6,350		
	33	Music, Drama, Dance, Performing Arts, Film and Screen Studies	522	247	760	29	1,558	1,167	18	1	1,186	8	1	9	29	167	196		389	6	5		400		14	98	2	114		210	210	3,673		
	34	Communication, Cultural and Media Studies, Library and Information Management	605	103	597	1	1,306	1,685	10	3	1,698	5		5	7	7	14		11	2	16		29		2	71		73		47	47	3,172		
総計			11,796	2,126	9,472	327	23,721	154,799	2,271	390	157,460	378	14	392	746	312	1,058	37	429	118	431		1,015	11	67	358	30	466	37	1,137	1,174	185,286		
%			6.37	1.15	5.11	0.18	12.80	83.55	1.23	0.21	84.98	0.20	0.01	0.21	0.40	0.17	0.57	0.02	0.23	0.06	0.23	0.00	0.55	0.01	0.04	0.19	0.02	0.25	0.02	0.61	0.63362			

D. Journal articlesの数／総計	Part of booksの合計 (A～B+R)／総計	Journal article +Books /総計
99.84	0.03	99.87
99.17	0.10	99.27
99.56	0.12	99.68
99.80	0.12	99.92
99.86	0.03	99.89
99.80	0.00	99.80
99.52	0.43	99.95
99.89	0.00	99.89
99.76	0.04	99.80
97.05	0.40	97.45
76.38	0.51	76.89
98.89	0.20	99.09
84.84	11.58	96.42
93.30	6.39	99.69
66.72	32.28	99.01
95.43	0.67	96.10
97.32	1.89	99.21
64.08	34.50	98.58
75.89	23.69	99.58
81.96	16.02	97.98
75.83	23.45	99.29
73.21	24.97	98.18
81.47	16.27	97.74
98.39	1.50	99.89
61.05	37.82	98.88
51.48	46.09	97.57
34.32	63.24	97.55
48.70	50.69	99.39
28.37	70.04	98.41
68.76	30.65	99.41
37.48	61.24	98.72
31.10	31.02	62.13
31.77	42.42	74.19
53.12	41.17	94.29

Journal articles	
J+B	Books
95.0以上	70.0以上
90.0～	60.0～
80.0～	40.0～
70.0～	20.0～
60.0～	10.0～
40.0～	1.0～
39.0以下	-
-	1.0未満

◎ Guidance on submissions (2019/01) October 2020, 103頁~113頁から抜粋

※日本語訳はDeepL翻訳を基に発表者が修正

<https://2021.ref.ac.uk/publications-and-reports/guidance-on-submissions-201901/index.html>

研究成果の分類（7分類・22種類）	
i. (Parts of) books 書籍・書籍の一部	
A	Authored（著書）
B	Edited book（編著）
C	Chapter in book（書籍の一部）
R	Scholarly edition（解説書）
ii. Journal articles and conference contributions 論文ジャーナル・会議報告	
D	Journal article（ジャーナル論文）
E	Conference contribution（会議報告）
U	Working paper（ワーキングペーパー）
iii. Physical artefacts 芸術作品・装置等	
L	Artefact（美術品・工芸品）
P	Devices and products（装置・製品）
iv. Exhibitions and performances 展示・実演	
M	Exhibition（展示）
I	Performance（実演）
v. Other documents その他のドキュメント	
F	Patent/published patent application（特許・特許出願）
J	Composition（作曲）
K	Design（デザイン）
N	Research report for external body（外部組織向けの研究報告）
O	Confidential report for external body（外部組織向けの非公開の研究報告）
vi. Digital artefacts (including web content) デジタル作品（ウェブコンテンツを含む）	
G	Software（ソフトウェア）
H	Website content（ウェブサイトのコンテンツ）
Q	Digital or visual media（デジタルまたはビジュアルメディア）
S	Research data sets and databases（研究データ、データベース）
vii. Other（その他）	
V	Translation（翻訳）
T	Other（その他）

REF2021における研究成果の分類（抜粋）

i. 書籍（または書籍の一部）		定義
A	Authored（著書）	単一著者、または全著書に対する責任を共有する共同著者によって完全に執筆された著作物。 以下を含む： • 学術書 • 研究モノグラフ • 著者による（上記で定義された）重要な研究に基づく教科書 • 上記の改訂版／新版（実質的な新規研究資料を含む場合に限り） • 小説、戯曲、脚本 • 著者による戯曲、詩、短編小説、その他の創作作品の集録。
	Edited book（編著）	複数の著者が個々の章や寄稿を執筆した書籍または全集。 このカテゴリーで作品を提出するには、編集者が単独で責任を負っているか、編集作業、収録作品の選定、調査の基盤となるプロセスに実質的な貢献をしたと認められる必要がある。 以下を含む： • 編集書籍または編集巻 • 重要な背景調査を必要とする教科書または百科事典 • 注釈に研究が反映された注釈付きアンソロジー • 相当量の新規研究資料を含む場合の上記の改訂版または新版 • 研究的性質の重要な編集作業を含む文学翻訳
C	Chapter in book（書籍の一部）	このカテゴリーには、編集書籍への寄稿が含まれる。 これには学術的な著作（scholarly work）が含まれる場合がある。例として： • 編集書籍の章 • 重要な研究内容を含む教科書の項目 • 学術的編集版の項目 • 重要な新規研究資料を提供する改訂版または新版の項目 • 研究を構成する重要な編集作業を含む翻訳
	Scholarly edition（解説書）	他の著者の原典作品または作品群を、出典（初期写本、テキスト、文書、書簡など）の批判的評価に基づいて編集した版。多くの場合、学術的な序文と、テキストおよび／または原作者に関する注釈や分析を付す。 研究の一部を構成する場合、原典テキストの翻訳を含むことがある。
v. その他のドキュメント		定義
N	外部組織向けの研究報告	外部組織から委託および／または資金提供を受けた非機密報告書。民間企業、政府機関、非政府組織向けの報告書を含む。非委託報告書も含まれる場合がある。
O	外部組織向けの非公開の研究報告	外部組織（民間企業、政府機関、非政府組織を含む）が委託および／または資金提供した機密報告書。明確化のため、機密資料はオープンアクセス要件の対象外。
vii. Other（その他）		定義
V	Translation（翻訳）	他の著者による作品または作品群の翻訳であり、出典（初期写本、テキスト、文書、書簡など）の批判的評価と、新たな読者層に向けた原作の文化的背景の批判的分析に基づく。 翻訳には学術的序文や注釈、文脈分析が含まれる場合もある。翻訳は対象資料への既存の理解を深め、それ自体が創造性の証となることもある。

イギリスREF2021とオーストラリアERA&EI2018における研究成果の分類と「書籍」（中野・市川作成）

	制度名	対象	研究成果の分類	例	「書籍」
英	REF2021	アウトプット評価	7つのカテゴリー 22種類 (共通の一覧表)	1-書籍（または書籍の一部） 2-論文ジャーナル・会議報告 3-芸術作品・装置等 4-展示・実演 5-その他のドキュメント 6-デジタル作品（ウェブコンテンツを含む） 7-その他	1-書籍＝4種類（単著／編著／書籍の一部／解説書）。単著には、学術書、研究モノグラフ、小説、戯曲、脚本、その他創作作品の集録など。改訂版・新版も可能（新規研究資料等がある場合） その他に 5－その他ドキュメント＝報告書 7－その他＝翻訳
		インパクト評価 ※インパクトケースごとにMAX6件のReferencesの記載が可能			
豪	ERA2018 (Excellence in Research for Australia)	アウトプット評価	伝統的研究成果 traditional research output	1. ジャーナル論文 2. 書籍 3. 書籍の一部 4. 会議の出版物 (査読付フルペーパーのみ)	学術文献 歴史的出来事の新解釈 既存の知見に基づく新しい理念・観点
			非伝統的研究成果 non-traditional research output, NTRO	1. 創造的作品（美術、デザイン、建築、文章作品など） 2. 実演（音楽、演劇、舞踊など） 3. 録画・録音、3Dモデル、デジタル作品、ウェブコンテンツ 4. 展示、イベント 5. 委託調査報告書 6. ポートフォリオ（同一の研究から生まれた複数の成果を1点として提出）	小説 批評 カタログ 翻訳 報告書
	EI2018 (Engagement and Impact)	インパクト評価		研究がエンドユーザーへの関与・社会へのインパクトにつながった事例の中で、政策提言、メディアでの発言、商品開発、講演、書籍の販売に触れる	一般書、教科書、実用書を含む

[ERA2018 タイプ別アウトプット] (市川作成)

元データ : <https://dataportal.arc.gov.au/ERA/NationalReport/2018/pages/section4/research-outputs-by-type/>

BookとBook Chapter、NTRO（報告書以外）を統合、各項目の割合（％）を計算したもの。

FoR (Field of Research) Name	Book/ Book Chapter	Journal Article	Conference Paper	NTRO other than Research Report	Research Report for an External Body	Total	% of Total	Book/ Book Chapter (%)	Journal Article (%)	Conference Paper (%)	NTRO other than Research Report (%)	Research Report for an External Body (%)
Mathematical Sciences	403.3	9787.0	1610.9		8.2	11809.4	2.3	3.42	82.87	13.64		0.07
Physical Sciences	253.8	16446.2	2836.6		6.0	19542.7	3.9	1.30	84.16	14.51		0.03
Chemical Sciences	536.8	17456.7	336.7		4.6	18334.8	3.6	2.93	95.21	1.84		0.03
Earth Sciences	513.7	11926.9	815.3		77.3	13333.2	2.6	3.85	89.45	6.11		0.58
Environmental Sciences	1198.7	9646.4	679.6		365.0	11889.6	2.3	10.08	81.13	5.72		3.07
Biological Sciences	1491.2	32535.1	395.0		80.8	34502.1	6.8	4.32	94.30	1.14		0.23
Agricultural and Veterinary Sciences	680.6	11781.9	1196.3		185.6	13844.4	2.7	4.92	85.10	8.64		1.34
Information and Computing Sciences	1526.5	10957.1	15947.1		12.7	28443.4	5.6	5.37	38.52	56.07		0.04
Engineering	2148.3	45941.3	23514.6		137.4	71741.6	14.2	2.99	64.04	32.78		0.19
Technology	282.9	3937.6	1398.6		6.3	5625.4	1.1	5.03	70.00	24.86		0.11
Medical and Health Sciences	4557.7	109311.1	1748.1		527.0	116143.9	22.9	3.92	94.12	1.51		0.45
Built Environment and Design	1955.8	4729.8	3970.8	1176.9	261.7	12095.0	2.4	16.17	39.11	32.83	9.73	2.16
Education	5394.5	12848.9	3210.0	38.5	455.1	21947.1	4.3	24.58	58.55	14.63	0.18	2.07
Economics	1023.9	6400.1	338.3	1.0	122.0	7885.4	1.6	12.98	81.16	4.29	0.01	1.55
Commerce, Management, Tourism and Services	3217.5	16647.1	3012.3	11.4	268.5	23156.7	4.6	13.89	71.89	13.01	0.05	1.16
Studies in Human Society	8184.8	15274.3	783.7	135.2	638.1	25016.2	4.9	32.72	61.06	3.13	0.54	2.55
Psychology and Cognitive Sciences	1720.7	15027.8	694.1		79.4	17522.0	3.5	9.82	85.77	3.96	0.00	0.45
Law and Legal Studies	4053.6	7400.5	162.8	9.2	147.7	11773.9	2.3	34.43	62.86	1.38	0.08	1.25
Studies in Creative Arts and Writing	2391.7	3018.3	796.6	5915.7	34.6	12156.9	2.4	19.67	24.83	6.55	48.66	0.28
Language, Communication and Culture	5804.2	7265.1	759.8	151.7	117.8	14098.7	2.8	41.17	51.53	5.39	1.08	0.84
History and Archaeology	3817.8	4337.9	175.6	109.5	21.6	8462.4	1.7	45.11	51.26	2.08	1.29	0.26
Philosophy and Religious Studies	3167.0	3659.9	111.1	15.9	15.6	6969.6	1.4	45.44	52.51	1.59	0.23	0.22
All FoRs	54325.0	376337.0	64494.0	7565.0	3573.0	506294.0	100.0	10.73	74.33	12.74	1.49	0.71

インタビューへのご協力をお願い

2025 年 8 月

人文・社会科学系 URA ネットワーク有志

【インタビュー調査の趣旨】

- ・ 文部科学省 人文学・社会科学特別委員会の議論を経て、人文学・社会科学の研究動向に係るモニタリング指標のうち「書籍」に係る指標の開発に向けた調査・分析が実施中。
(人文学・社会科学の DX 化に向けた研究開発推進事業)
https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00422.html
- ・ 「書籍」といっても研究分野によって研究成果としての意味合いが異なると思われるため、分野ごとの研究成果の在り方と書籍の位置づけについて現場感覚が知りたいと考え、今回のインタビューを企画。
- ・ 人文・社会科学系 URA ネットワーク（※）の有志が、各所属機関等の研究者に対するインタビューを実施。
- ・ 研究者の意見から課題を整理し、ボトムアップの議論の土壌を作りたい。

【お伺いした内容の利用について】

- ・ 匿名化した上で、全国の URA の集まりであるリサーチ・アドミニストレーション協議会（RA 協議会）年次大会におけるポスター発表で活用させていただきます。
RA 協議会 第 11 回年次大会（2025 年 10 月 21～22 日、於 熊本）
https://rman.smartcore.jp/M022/forum/11th_annualmeeting_2025
- ・ 課題の整理にあたって、伺った内容を人文・社会科学系 URA ネットワーク有志間で共有させていただきます。お名前・ご所属を伏せての共有となりますが、インタビュー担当者よりご所属大学は自明となる可能性をなにとぞご了承ください。

（※）人文・社会科学系 URA ネットワークについて

人文・社会科学系分野特有の支援の方法などに関する相談・情報交換の場として、2014 年、阪大・京大・筑波大の URA でネットワークを発足しました。以降、人文・社会科学系担当 URA 有志のネットワークの輪が拡大し、現在、13 機関が参画しています。

大阪大学、筑波大学、京都大学、早稲田大学、琉球大学、北海道大学、横浜国立大学、中央大学、広島大学、東京大学、東北大学、新潟大学、神戸大学

「人文・社会科学系研究推進フォーラム」や「JINSHA 情報共有会」の開催を通し、URA、研究者、事務職員、府省・資金配分機関担当者などが、ともに人文・社会科学系分野のよりよい研究推進のあり方を議論しています。

<https://www.ura.adm.u-tokyo.ac.jp/services/view/d6a8cef1-22f8-4c00-b080-c28fc4cf6c75#gsc.tab=0>

【お伺いしたい項目】

1. 基礎情報

- ・ お名前（匿名）
- ・ 所属（匿名）
- ・ 職名（省略可）
- ・ 研究分野（プロフィール等でご自身が使っている表記）
- ・ 研究分野（科研費小区分で最も近いもの、複数可）
- ・ https://www.jsps.go.jp/file/storage/grants/j-grantsinaid/03_keikaku/data/r05/syokubun.pdf
- ・ 研究キーワード（最大5つ）
- ・ 年齢層 ●歳代

2. 共通質問項目

(1) 研究成果の発表方法・形式について

- ・ ご自身の分野で、研究成果の発表方法・形式はどのようなものが主流ですか。
特に書籍の位置づけについて教えてください（研究成果としての「学術書」「一般書」「教科書」等の違い、出版社の選び方、など）。
他にも、論文・書籍以外のアウトプットなどについて、発表言語（日英その他）、翻訳など。

(2) 研究動向や成果の可視化について

- ・ 全体的な動向について：ご自身の分野の研究動向を知るために、参照している媒体（雑誌論文、出版社、等）はありますか。
- ・ 優れた研究成果について：その中でも優れた研究成果はどこに発表されることが多いですか。
- ・ 自然科学系分野では被引用数が可視化や評価などでウェイトを占める場合がありますが、ご自身の分野ではどうでしょうか。
 - 引用されることが、その成果の価値を高めることになりますか。
 - （被引用数など）引用されたことを知る手段はありますか。

(3) 人文・社会科学の研究動向に係るモニタリング指標の検討について

- ・ 「インタビュー調査の趣旨」に記載の通り、第6期科学技術・イノベーション基本計画に記載された人文・社会科学系分野に係るモニタリング指標について、現在、調査・分析が行われています。
人文・社会科学の研究動向に係るモニタリング指標の検討について、ご意見・お考えなどを教えてください。（例：必要性や研究評価との違い 等）
- ・ 書籍の情報をモニタリング指標として適切に利用する場合、どのような周辺情報が必要と考えますか（例：受賞、発行部数、書評、引用、出版社、増刷の有無 等）。
また、どのようなデータベースがあればよいでしょうか。

【参考】 文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 人文学・社会科学特別委員会
「人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について（とりまとめ）」 2023/2/7 から

「1. 検討の経緯

・・・ 研究評価指標ではなく、人文学・社会科学について総合的・計画的に振興し、自然科学の知と融合した「総合知」の創出・活用を促進する上で、特に検討が必要な研究成果に関連するモニタリング指標について、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会において検討を行った。」 2 ページ

「5. 人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について

(目的)

・・・今回のモニタリングは、学術及び科学技術の観点から、我が国全体の人文学・社会科学の研究活動を可視化することを目的としており、その結果が研究力のトレンドやマクロの分析に活用されることで、我が国の人文学・社会科学のより一層の振興が図られることを目指すものである。

また人文学・社会科学の研究成果が可視化され、発信されることで、国民の理解が増進すること
も期待される。」 16 ページ

「(書籍に関するデータの充実)

書籍は、量的側面について、前述のとおり網羅的に実態を把握することが現時点では困難である。
図書館に所蔵されていない書籍などについては、例えば TRC MARC などの民間データベースとの連携も含め、引き続き検討していく必要がある。さらに質的側面については、出版社と連携しながら、図書館に書籍が納入される際に、引用情報もデータの形で納入されるような仕組みを構築することなどにより、書籍に関する被引用情報の可視化が進むことが期待される。」 20 ページ

(文科省関連資料)

※文科省 科学技術・学術審議会学術分科会 人文学・社会科学特別委員会

「今後の人文学・社会科学の振興に向けた推進方策について（審議のまとめ）」 2025/1/17

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/048/houkoku/1421958_00004.html

「人文学・社会科学の研究成果のモニタリング指標について（とりまとめ）」 2023/2/7

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/048/houkoku/1421958_00003.html

「人文・社会科学研究に関連する調査：研究成果の多様性の可視化及び科学技術と社会の指標化を中心に」 2022/1/28 第9回資料 2-2

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/048/gijiroku/1421468_00004.htm